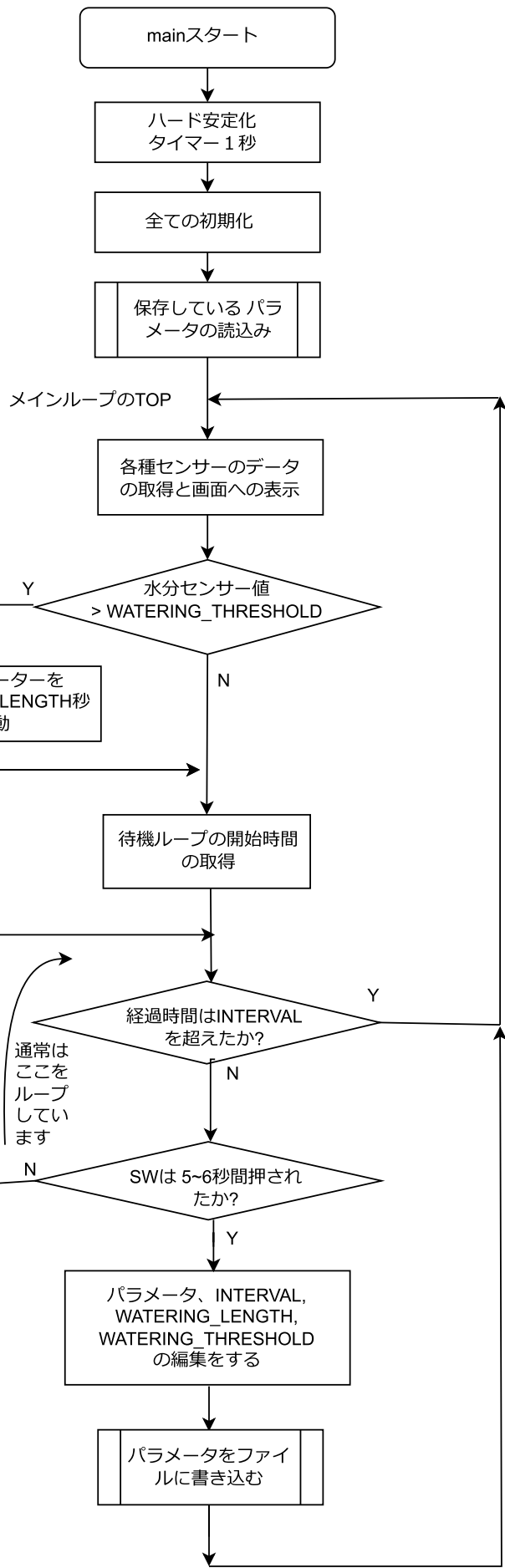


保存しているパラメータは INTERVAL、WATERING\_LENGTH、WATERING\_THRESHOLD です。この読込の後からメイン・ループに入ります。



基本的に、ここからが待機のループになります。何もなければ INTERVAL 値 (分) で指定された間ループします。この待機中に、基板の SW を 5~6 秒間押し続けるとパラメータの編集モードになります。編集は、INTERVAL、WATERING\_LENGTH、WATERING\_THRESHOLD を順次に編集します。

【パラメーター】

**INTERVAL**  
各種データを読み込み更新し、水やりが必要ならポンプを起動して決められた時間(WATERING\_LENGTH秒)動作させます。この一連の作業は、常時行う必要はなく、一定の間隔において間歇的に行います。その値をINTERVALとしています。単位は分です。30~60分の間隔でも良いと思いますが、初期値は10分になっています。もちろん、通常ループの中で、編集モードに入ることができますので、そこで編集します。

**WATERING\_LENGTH**  
上記で説明しています、水やりポンプの作動時間です。単位は秒です。水やり先の状況で著しく変更する必要があると考えられます。初期値は5秒にしています。これも編集モードに入って変更することができます。

**WATERING\_THRESHOLD**  
土壌水分センサーの読込値は、実際に対象の土壌に設置して確かめなければなりません。大方の感じとしては乾燥していると 40000~60000 を示し湿っていると 15000~25000 程になります。初期値は、30000にしています。当方のテストの環境ではそれで良かったですが、これも現場に合わせてください。これも編集モードに入って変更することができます。

【ファイルについて】

Raspberry Pi Pico のルートには、このソフトが main.py という名称で入っています。それ以外に、このソフトで直接利用するファイルとして report.dat と parameter.dat が有ります。

**report.dat**  
このソフト自体は、エラーが何らかの理由で発生した場合、再起動するようにしています。その場合の理由を記入するようにしています。

**parameter.dat**  
上記の3種類のパラメータ値を保存しています。Thonny を使って直接編集する事も可能です。  
順番は・・・  
INTERVAL(分)  
WATERING\_LENGTH(秒)  
WATERING\_THRESHOLD  
・・・で、カンマ(,)で区切って入っています。